中小企業大学校 四国キャンパス2021

課題解決へ実践力育てる

中小機構四国本部

中小企業基盤整備機構四国本部が運営する「中小企業大学校四国キャンパス」は2019年の開校から３年度目を迎えた。同キャンパスは、校舎などを持たずに貸会議室などで、講義や研修ができるのが特徴だ。これにより多くの受講生が多様な研修に参加できるようになった。今年はこれをさらに進化させ、各地域支援機関との連携を強化し、「共催」研修に取り組んでいる。今回の特集では、これら研修の内容や受講生の声を紹介していく。

地域支援機関との連携強化

中小企業大学校は全国に九つの大学校と二つのキャンパスがあり、四国キャンパスは一番新しいものになる。初年度は３講座で、延べ47人、２年目はコロナ禍の影響もあり、一部休講はあったが、感染対策を万全にで（11月時点）９講座で同１４３人が受講している。いずれの講義もほぼ定員に達しており、受講生や企業からは好評を得ている。

このように今期も順調に研修を開催しているが、３年目は「真価が問われる年」とも言われる。これまで同キャンパス自体の認知度が低いといった課題もあった。そこで地元企業と結びつきの強い四国の各地域支援機関からの協力を得ながら各地域の特性にあわせた研修を組成し、各地域支援機関と共催する「新しいカタチの研修」に積極的に取り組んでいる。

11月4―5日には、公益財団法人えひめ産業振興財団（松山市）と愛媛県中小企業団体中央会（同）と「安心な経営のための資金繰り講座」の研修をテクノプラザ愛媛（同）で共催した。延べ21人の受講生が参加した。受講後には、「自分で決算書を読んで会計士に質問してみようと思えるようになった」と、声もあがるなど受講生にとって有意義な研修となった。

11月12日と26日には、高知県工業技術センター（高知市）と「利益につなげる生産性向上　現場改善の基本を身に付ける！」を同センターで共催した。

2日にわたる研修では通常連日の開催になるが、今回は次までの期間に14日間設けた。初日に課題を出し、2日目までに受講生に取り組んでもらい、それを2日目で発表するという形式をとった。受講生自らが「自社にて現場改善の旗振り役」となるということを意識づけるための日程となった。

初日は、テーマである現場改善の心構えや事例紹介などを中心に座学で行い、課題と自社の課題とを照らしあわせた。2日目は、課題回答からはじまり、グループワークや「2分間スピーチ」など、受講生らは積極的に自分の意見を述べた。

両日の研修を終えた受講生からは、「部下も参加させて5Sの輪を広げたい」という声も出るなど、次への期待値も高まっていた。

同キャンパスでは、今後もこのような共催という形式での研修を進めていく方針で、今期は愛媛県新居浜市と高知市で開催を予定している。

高知県工業技術センター 研究企画課長　山本　浩氏

「見える化」で効果的に人材育成

高知県工業技術センターは、1941年に高知県工業試験場として設立され、90年に現在の名称に改名し今に至ります。当センターは、県内事業者の技術力向上と、産業振興を促進するために必要な試験研究や技術支援、人材育成支援などを行うための総合的な試験研究機関となっております。

当センター独自での人材育成支援については、技術者養成講座や食品関連技術講座などの講座を行って参りました。18年には、各課で実施していた研修を当研究企画課がとりまとめ「見える化」を図ることにより、センター全体としてより効果的に人材育成支援を実施できる体制も整えております。

中小企業基盤整備機構との共催での研修プログラムは、18年度に中小企業大学校広島校での出張講座を皮切りに、20年度からは、同四国キャンパスで開催されている講座を活用しております。年1回『中核人材養成講座』として開催し、これまで延べ32企業・63人の方々に受講していただきました。研修内容は、幅広い業種に対応できる生産性向上をテーマにしており、講師の方々の説明が大変分かりやすく、受講後のアンケートでも参加者からは満足度の高い意見を頂戴しております。

今後も同機構との連携を深め、単独開催の研修に関する講師の紹介や、新たな研修課題の掘り起こしなど、ニーズに合ったプログラムを提供するとともに、研修内容そのものの質も高めていく所存であります。

今年は「共催」に注力

研修リポート

11月12日と26日、高知県工業技術センターにて、「利益につなげる生産性向上　現場改善の基本を身に付ける！」をテーマに開催された研修は、経営者や製造部門管理者らなど23人の受講生が参加した。

初日は、座学にて現場改善の心構えや事例紹介などを行った。研修後には、一人ずつに「製造現場の5S点検および改善」について課題が与えられ、受講生らは次回の研修に備えることとなった。

2日目は、初日に与えられた課題の発表から始まり、それについて受講生同士で評価しあった。次に、「現場改善ムダ取り手法」についての演習問題に取り組んだ。グループワークを行い白熱した議論が交わされていた。

最後は、振りかえりと感想として「2分間スピーチ」の場を設けた。スピーチでは、「課題をして気付いた点がでてきた」、「数値データを積極的に活用していきたい」、「会社全体で改善に取り組む」と、受講生らは笑顔を見せていた。こうして中身の濃い2日間は幕を閉じた。

研修を振り返っての2分間スピーチ

高知県工技センターで開催／受講生同士で評価も

受講生の声

SEG製造本部機械課係長　高松　成人氏

多くの気付き得た

▽受講のきっかけ

当社全体においての人材教育について生かせるのではないかということからでした。

「教える」立場にいる以上、自分たちも意識を高める必要があり、それができるのでは、と思い参加しました。

▽研修の感想

当社の業務とほぼ同じ内容ということもあり、受講中に多くの気付きを得たことは良かったです。2日目は発表主体で、発表回数が他の方より多かったのですが、研修の雰囲気も良く、周りも親切に接してくれ、充実した研修内容だったと感じております。

▽今後に向けて

初日の後に、社内研修を行い既に実践的に取り組んでいます。今後は他の従業員と一緒に受講する事で意識向上につなげていく事を検討しております。

三和製紙 抄造サブリーダー　山川　悟史氏

現場管理の重要さ再認識

▽受講のきっかけ

上司からの薦めと個人としても5Sについて興味があったため参加しました。

受講前は戸惑いを覚えましたが、研修を受けるうちに、自社ではまだできていない点に気付くことができました。

▽研修の感想

後々に大きな損害が出るような製品を扱っているため、現場管理の重要さが再認識できました。製造現場の監督者という立場を務めており、コロナ禍で生産調整を行っている時間もあります。受講した内容をその空き時間を使って従業員とともに取り組みたいです。

▽今後にむけて

このような研修は、当社でもはじめてで今後は他部署と評価しあうなど自社に持ち帰って、活用していければと考えております。

担当者コメント

中小企業基盤整備機構 四国本部企業支援部 人材支援課　中村　恵大氏

研修前後の「意識の変化」に期待

このたびの共催研修に参加いただいた受講生の方々へ厚く御礼申し上げます。

また、共催にあたり各地域支援機関の方々へ、ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

当キャンパスの特徴は、貸会議室などを借りることで四国管内どこでも開催できるフットワークの軽さになります。今回はその特徴に加えて、各地域支援機関との連携をより強化することで、地元企業に向けた質の高い研修を提供できるのではと考え、始めた取り組みでした。いずれの講義も多くの方に受講いただき、受講後のアンケートでも好評の声をいただいており、うれしく思っております。

担当者として期待することは、受講生の方々の研修前後での「意識の変化」です。研修を終えた受講生が、自社に帰った際に研修の内容をどのように生かしていくのかということが気になります。そのためにも、一方的な座学だけではなく、豊富なグループディスカッションや自社課題解決のカリキュラムなどを取り入れることによって受講生同士の交流や議論の「場」を設けられるような研修を講師の方と共に作りあげていければと考えております。

来年度は、四国4県、各1カ所で同様の研修が開催できるよう検討しております。今後も皆さまのご期待に沿えるよう、職員一同尽力して参ります。

中小企業の経営に特化した研修を四国でも

中小企業大学校

四国キャンパス

原動力を刺激する

✓階層別研修　✓企業経営・経営戦略　✓組織マネジメント

✓人事・組織　✓財務管理　✓営業・マーケティング　✓生産管理

Be a Great Small.
中小機構

詳細はこちらから　中小企業大学校　四国　検索